

## C-21 背縫い目のしまつについて

相模女大学芸 永井房子

(目的) 筆者は先に居敷あて布を縫いつけない場合の背縫い目の強度について、織物引張試験機を用い、反復くり返し50回後の縫い目の伸びについて検討し報告した。

今回は、縫い目のクリープ伸び、およびクリープ回復について実験を行ったので報告する。

(方法) 試料は先回と同様着尺地ウール100%を用いた。

①針目. 0.3 mm. および0.3 mmの半返し以上の2種類とした。

②縫いしろのしまつ

i. 身頃に縫いしろをくけつけない方法として A. 二度縫い B. 袋縫い C. 背伏せ布つけ縫い. D. 二度縫いのかわりに耳ぐけ. 以上4種類。

ii. 身頃に縫いしろをくけつける方法として E. 袋縫いをしてのち身頃にくけつける. F. 背伏せ布をつけてのちくけつける. G. 千鳥がけをしてのちくけつける. 以上3種類。これらを組合せた14種類の試料を同一縫製者がランダムに作製した。

予備実験の結果から、初荷重50g・クリープ荷重1.5kgとし、くり返しは5回とした。

(結果) クリープ伸びについて、いずれの針目、縫い方においても背伏せ布をつけた方法が伸びは小さかった。

クリープ回復について、いずれの針目においても二度縫いのかわりに耳ぐけをする方法が回復が好ましくない傾向であった。